

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年10月31日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ： アメリカ大統領選直前、オープニング、大阪都構想、米中関係、第三次補正予算案 加藤官房長官が自動配送ロボット実証実験を視察、横浜で混雑緩和の実証実験 【特集】アメリカ大統領選まで3日、【特集】”トランプの壁”は今		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大統領選直前 ・オープニング ・大阪都構想 ・トルコ沖地震 ・米中関係 ・第三次補正予算案 ・首里城火災から一年 ・加藤官房長官が自動配送ロボット実証実験を視察 ・鳥取でコロナ退散を願う風神雷神の砂像が完成 ・46年ぶりのハロウィーンでの満月 ・横浜で混雑緩和の実証実験 ・コロナ禍のハロウィーン ・【特集】米大統領選まで3日 ・【特集】”トランプの壁”は今 ・スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大統領選直前：結論→やや問題あり アメリカ大統領選挙の直前の様子がVTRで以下に朱記したように取り上げられていた。 "ナレ「この日もYMCAの曲にノっていたトランプ大統領、生みの親のアーティストからは曲を使わないほしいと言われたはずですが、民主党のバイデン候補に勝つためなら何でもありという勢いの最後の週末、投票まで残り4日となり、トランプ大統領は中西部3州を訪れ、精力的に演説を行いました。」 トランプ大統領「今日は寒い皆さんの中にととてもあたたかく感じる。4日後、この州で勝利し、ホワイトハウスでのさらなる4年間を勝ち取ろう。」 ナレ「今回も新型コロナ対応について数週間中にワクチンを国民に提供するなどアピールしたトランプ大統領ですが、" ロイター通信によりますとアメリカでは30日の新規感染者が過去最多となる10万人超を記録するなど感染拡大が深刻となっています。 "これに対しバイデン氏は各地でトランプ氏の失策で追い込みをかけます。」 バイデン候補「アイオワ州では昨日新規感染者数が記録的数字となった。2300人以上だ。トランプは白旗を掲げウィルスに屈した。我々は屈服しない。」" 		

"ナレ「今回の大統領選では新型コロナの影響で多くの人が期日前投票を済ませていますが、カリフォルニア州ではこんな投票所も、」

尾関淳哉（報告）「数々の日本人メジャーリーガーもプレーしたフィールドを見下ろす、こちらのスペースで期日前投票が行われています。」

ナレ「メジャーリーグ、ドジャースの本拠地、ドジャースタジアムで始まった期日前投票、新型コロナの感染対策に加え、投票率アップを狙って初めて実施されたもので、野球ファンなどが次々に訪れ投票しました。」

投票した人 A「素晴らしい、投票しながら自分達の特別な場所を楽しめるしね。」

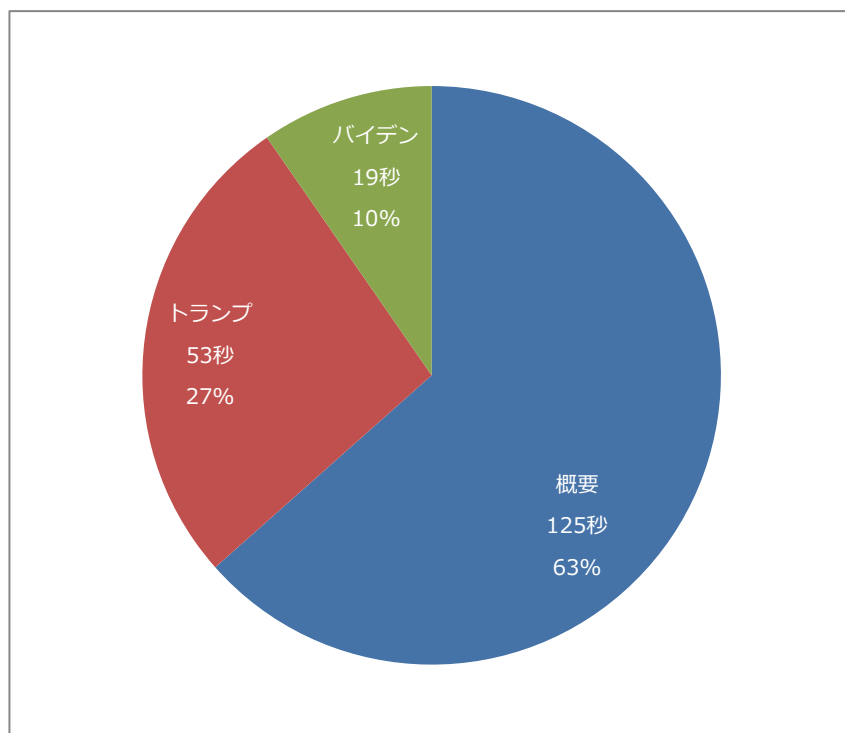
投票した人 B「新型コロナ感染拡大で無観客だったので球場が恋しかった。」

ナレ「こうした中、各地では大統領選を巡る混乱に備え、対策が始まっています。"

"岩田夏弥（報告）「ホワイトハウスの前です、こちらの建物はですね、ご覧のように周りに高いフェンスが張られて近づけないようになっています、そしてあちらの建物なんです、扉の部分だけではなくてですね、壁全体が板で覆われています、」

ナレ「首都ワシントンでは市長が来月 3 日の投票日に相当数のデモが申請されているとして、一部のものは混乱やトラブルを引き起こそうとするだろう、と注意を呼びかけました。当日は警察が総動員で対応に当たる予定で州兵が警戒態勢に入っているということです。またニューヨークでも老舗百貨店メイシーズなど様々な店舗の外壁が板で覆われました。大統領直前、両者の対決を前に警戒感が強まっています。」"

このトピックに当てられた時間は 197 秒で時間配分及び比率は以下の通りだった。



ややトランプに偏った報道となっていて放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点で問題があるといえるものであった。

・ オープニング：結論→特に問題なし

番組のオープニングで金平キャスターが「ええ、投票日まであと 3 日となったアメリカ大統領選挙、トランプ大統領があと 4 年、続けて大統領を務めるのか、あるいはバイデン新大統領が誕生するのか、結果は今後の世界

の行方に多大な影響を及ぼします、アメリカに入ってほぼ二週間、取材を続けて来ましたが、日本の人々にも決して人ごとではないことを思い知らされる毎日です、全編特集でお伝えします。」とコメントしていた。

このシーンに当てられた時間は 31 秒で放送法上は特に問題なかった。

・大阪都構想：結論→問題あり

膳場キャスターの「政令指定都市の大阪市を廃止し、4つの特別区に再編するいわゆる大阪都構想についてです、」とのコメントおよび日下部キャスターの「賛否を問う住民投票が明日に迫り、最後の訴えが続いています。」とのコメントを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「大阪都構想は 2025 年に政令指定都市の大阪市を廃止し、東京 23 区のように新たに 4つの特別区を設置しようというものです。

"賛成派の大阪維新の会は若者が集まる大阪の繁華街で大阪の改革を訴えました。"

松井一郎（大阪維新の会代表）「大阪市民の方、大阪府と大阪市、権限がままでバラバラだから揉めるんです、過去のその悲惨な状況を根本から断ち切るために制度として皆さん、役割分担を明確にしていきたいと思いますというのが大阪都構想です。」

吉村洋文（大阪維新の会代表代行）「せっかく僕ら、大阪に生まれ育ったんだから、もっと大阪を成長させようと、もっとワクワクする大阪作ろうよ、というのが大阪都構想です。」 "

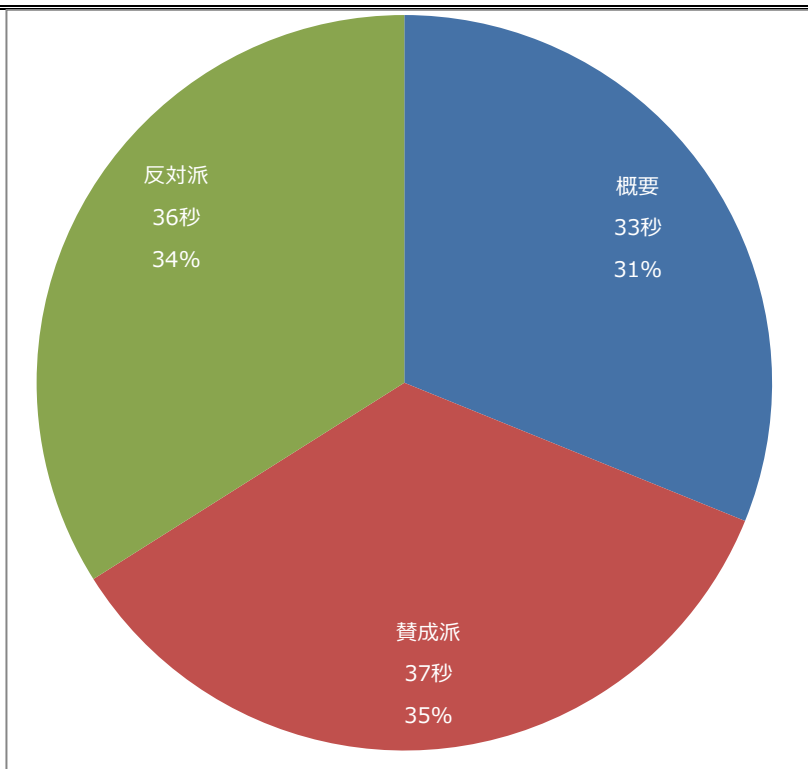
"ナレ「一方、反対派の自民党は大阪のシンボル、通天閣の前で大阪市の存続を訴えました。」

北野妙子（自民党大阪市議団）「明らかに一つの大阪市が廃止されて4つの特別区になるときは明らかに皆さんの住民サービスが下がります、損をします。」

西田昌司（自民党参議院議員）「1票でもね、この賛成票のほうが多かったらもう終わりですよ、4つの行政府の住民は大阪府に財源を召し捕られて苦しんでいるんじゃないか、お前たち何をやってきたんだ。って言われますよ。」 "

ナレ「住民投票は明日行われ、即日開票をされます。」

このトピックに当てられた時間は 106 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



この報道の時間配分は上記のとおりであったが、大阪都構想を巡っては都構想を推進する地域政党維新の会に対して自民党から共産党といった全国政党がスクラムを組んで反対しているという状況である。

これは普段の国会論戦では維新があまり取り上げられないこともあり、自民公明 vs 立民共産という構図が取り上げられ、それに慣れ親しんできた非関西圏の視聴者からすると馴染みのない奇異な対立構図に思えるが、今回の報道では立民や共産の立場が明らかにされることはなく、維新 vs 自民という構図で描くというのは都構想をめぐる争点がぼけてしまうことにならないだろうか。そういう意味では放送法第四条一項三号「報道は事実をまげないですること」に照らすとやや不十分であると言えるし、そもそも立民や共産を全く無視するかのような報じ方は放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に照らしても問題と言える。

・米中関係：結論→特に問題なし

膳場キャスターによって「アメリカや中国が台湾や南シナ海で緊張を高める中、米中の国防当局者が両軍の危機管理について話し合いました。この会議は来月以降も続くとしています。ナレ「アメリカと中国の軍の危機管理に関する作業部会は 28 日から 2 日間テレビ会議の方式で行われました。南シナ海や台湾などをめぐる米朝の緊張の高まりから双方の偶発的な軍事衝突を回避するために行われたものと見られます、中国国防省の呉謙報道官は会見で『両軍の国防当局者の間では会見で両国の国防当局者の間では意思疎通を図り利益をともにする分野で協力することで合意している』として、『来月以降もテレビ会議を行う予定』としています。また中国側は『互いに敵意を減らしリスクをコントロールすることを希望する』などと主張し、歩み寄る姿勢も見せています。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 60 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・第三次補正予算案：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「政府与党は新型コロナウイルス対策を盛り込んだ今年度の第三次補正予算案を編成する方針を固めました。菅総理が来月 10 日にも編成を支持する方針です。」とのコメントを受けて、VTR とともにナ

レーションによって「政府与党は昨日発表された今年 9 月の有効求人倍率が 2013 年 12 月以来の低い水準となるなど、新型コロナウイルスによる経済への影響が長引いていることから、第三次補正予算案を編成する方針を固めました。来年 1 月末に期限を迎える GoTo トラベルや今年 12 月末までの雇用調整助成金などの上限額引き上げなどの特例措置などについても期限の延長が検討されています。補正予算案を巡っては自民党の下村政調会長が昨日、民放の BS 番組で『規模については私の感覚では 10 兆円から 15 兆円くらい』と述べた他、菅総理が来月 10 日頃に編成を指示するとの見方を示しています。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 65 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・加藤官房長官が自動配送ロボット実証実験を視察：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「加藤官房長官が国内初の実証実験を視察しました。」とのコメントを受けて、VTR とともにナレーションによって「荷物を届ける自動配送ロボット、加藤官房長官が見守る中病院から郵便局までおよそ 700 メートルを時速 2,3 キロでゆっくりと進みます、信号などを自分で判断し、横断歩道を渡ることもできます。自動配送ロボットが遠隔操作で公道を走行する実証実験は国内で初めてで、視察後、加藤長官は関係省庁がスピード感を持って実用化に取り組んでもらいたいと語りました。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 38 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・横浜で混雑緩和の実証実験：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「コロナ禍での大規模イベントで入場制限を緩和することはできるのか、横浜スタジアムではプロ野球の試合に従来の制限を超える観客を入れて感染対策の効果を調べる二日目の実証実験が行われています。」とのコメントを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「現在、入場者が 10000 人を超えるイベントについては最大収容人数の 50%までに入場が制限されていますが、横浜スタジアムでは昨日からプロ野球の試合で上限を超える観客を入れて感染対策の効果などを調べる実証実験が行われています。高精細カメラでマスクの着用率を調べたり、通信アプリ LINE と連動させた装置で混雑度を計測したりする技術を実証するとされ、分析結果は 11 月上旬に公表されるということになっています。」

野球ファン A「私は抑えてもいいのかなとじゃ思います。これまでとは間隔もやはり隣の方もいらっしやっただ、ちょっと不安が残りました。」

野球ファン B「密は密だと思っんですけども、まあ本当に、ルールはちゃんと守ってやれば大丈夫なのかな、と。」

ナレ「実証実験に向けて観客を増やすためにチケットの割引販売も行われていますが、昨日の観客数は想定 80%を大きく下回る 51%にとどまりました。今日 90%まで上限を引き上げる想定で行われ、75%まで席が埋まったということです、横浜での実証実験は明日が最終日で更に上限を引き上げ、満員を想定して行われます。」

このトピックに当てられた時間は 101 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】アメリカ大統領選まで 3 日：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集はアメリカ大統領選挙です、ワシントンの金平さん。」とのコメントおよび金平キャスターの「投票日まであと 3 日のアメリカ大統領選挙、4 年前の大統領選とはっきりと異なっている点があります。コロナウイルス感染が最悪の状況を迎える中での投票であること、このため郵便などによる事前の投票が空前の数隣、既に 8700 万人以上の有権者が投票しているとのことです、投票率はかなり高くなるものと思われ、最終盤の現場で何が起きているのでしょうか。」とのコメントを受けて以下に朱記したような特集の VTR が取り

上げられていた。

"ナレ「大統領選を目前に控えた首都ワシントン DC、街の至るところで建物を補強する作業が行われていた。」
金平茂紀（報告）「大統領選挙の投票日当日、あるいはそれ以降ですね、投票結果に不満を表明する集会やデモが数多く予定されていて、まあ防衛措置が今取られているところですね、こういう風景が今、ワシントンではあちこちで見られています。」

ナレ「ショーウィンドウの前に板で作られたバリケードが並べられていく。"

コロナ禍の大統領選、期日前に投票を済ませた人の数は 8700 万人以上に登り、前回の選挙を大幅に上回っている、喫緊の課題は新型コロナへの対応だ。」

"ドナルド・トランプ大統領「ニュースはコロナ、コロナばかり。いつになったらやめるんだ。」

ナレ「こう訴えるトランプ大統領だが"

アメリカ国内での一日の新規感染者数は 88000 人を数え、過去最多を更新、深刻な状況となっている。」

"金平茂紀「うわあ、これ全部旗だよ、これ、すごいな。」

ナレ「芝生を埋め尽くす数え切れない程の白い旗、ワシントン市内の公園に作られていたのは新型コロナによってなくなった人の数だけ作られた旗だ。」

スザンヌ・ファステンバーグさん「こちら見てください、昨日一晩で 1300 人の方がなくなりました、急増しています。」

ナレ「考案したのはアーティストのスザンヌ・ファステンバーグさん、なくなった一人ひとりの命の重さに気づいてほしい、という。」

スザンヌ・ファステンバーグ「私は 25 年間ホスピスでボランティアをしていました。そのときに大切な人を失う家族の悲しみを近くで見えてきました、政治家は数字しか見ていないから大丈夫乗り越えられると言っているけれど、それだけの問題じゃないと思う。白い旗にしたのはアメリカ国旗はいまや政治色に染まっているから、白は純真を示す色です。」

金平茂紀「旗が揺れていますね、まるで泣いたり呼びかけたりしていますね。」

ナレ「旗を立てているのはボランティアの人々だ。」

ボランティア A「9.11 で 3000 人がなくなり人々の怒りが高まりました、しかし今は 3 日毎に同じ数の人がなくなっています、誰かがこの責任を取らなければなりません。」

ナレ「この日、作業していた人の中に医師だった夫を新型コロナで亡くした女性がいた。」 "

"マージョリー・ペレスさん「この端は私の夫スティーブン・ジョン・ペレスです。5月に亡くなりました、地元で内科医をしていました。」

ナレ「新型コロナ患者の診療にもあたっていたという医師のスティーブンさん、治療を尽くしたが助からなかった。」

マージョリー・ペレス「回復期患者血漿もステロイドも使いました、病院も写ってレムデシビルも投与しました。トランプ大統領が使った 3 種類の薬のうち 2 週類を使いましたが、それでもなくなりました。とてもつらかったです。みんながもっとマスクをすればこんなひどいことにはならなかったと思います。」

ナレ「マージョリーさん自身も感染し、後遺症に苦しんでいるという。」

マージョリー・ペレス「私も新型コロナに感染し 17 日間苦しみました、家族全員が感染しました。その後後遺症も二ヶ月間続きました。頭が朦朧としたり物忘れが激しかったり疲労感が強くずっと寝ているんです。」 "

"ナレ「大統領選を迎える今、アメリカは夫の死と犠牲者が増え続ける現実に向き合ってほしい、そう強く願っている。」

マージョリー・ペレズ「これはなくなった人々です、この沢山の旗を見ると何人が亡くなったのかと本当に圧倒されます、大切な命です、私達はまだコロナを乗り越えてはいません、トランプ大統領は目処がついたとっているようですが、それは事実とは程遠いと思います。」

(CM)

"ナレ「今週火曜日、ミシガン州の州都、ランシング、夜明け前にも関わらず空港の敷地には大勢の人が集まっていた。」

金平茂紀「トランプ大統領の集会が午後 2 時に始まるのに、朝 7 時からこの状況ですよ、で、トランプグッズを売っている、こう支持者が、こういて、4 年前フロリダの集会とか、支持者集会を取材したんですけども、ミシガンとか大激戦州なので、熱の入りが違うんでしょうけれど、すごいですね。」

ナレ「この日の最低気温は 3 度、海上があくまで毛布を被って待つ人も。ミシガンはかつて鉄鋼業などが盛んだったラストベルトと呼ばれる地域だ。長年、労働者の票を背景に民主党候補が制してきたが、4 年前はトランプ大統領が得票率わずか 0.23 ポイント差で勝利した。ここでの結果が大統領選の勝敗を左右すると言われている。午前 10 時過ぎ、続々と人が集まってきた、マスクをしていない人が多い、」

金平茂紀「寒い中で行列を作ってこういうふうにならんでいて、盛り上げていると、今この行列に並んでいる人たちもまあマスクしている人いますけれども、していない人が結構いますね。マスクをしていませんね？」

男性 B「第一は自由のためだよ。第二に疫学者が真実を伝えていないからだ。ビタミン剤を飲んで免疫を強くすれば大丈夫だということを隠していたんだ。」

金平茂紀「あなたが羽織っているのは。」

女性 C「Women for Trump (トランプを指示する女性たち) よ。『大統領は女性に差別的だ』という人は大勢いるけれど、『それが真実ではないと知っている』とトランプに伝えたいの。」

"

"ナレ「会場の一角にひととき目立つ人たちがいた。極右組織『プライド・ボーイズ』だ。FBI から白人至上主義者とならがりのある過激派グループと危険視されている 1. ブラックライブズマターを支持する極左組織などと何度も衝突を繰り返す全米各地で逮捕者が相次いでいる。彼らの名前は先月のテレビ討論会でも取り上げられた。」トランプ大統領 (テレビ討論会)「プライド・ボーイズよ、一時休戦し、待機せよ。だが言うておくと、誰かが左派や極左組織をなんとかしないとイケない。」

ナレ「これが極右の暴力を容認していると批判された大統領は後日、プライド・ボーイズを非難すると発言を修正した。彼らはメディアへの不信感からインタビューには応じないという。近くにいた女性が彼らのことを代弁したいと申し出た。」

女性 D「彼らの多くは元軍人です、私はプライド・ボーイズをたくさん知っています、モラルがある為変な人達とは付き合いません、これがアメリカ人、みんな自由のために戦っているんです。」

"ナレ「冷たい雨が降る中、予定時刻を過ぎても主役は現れないが、この盛り上がりだ、そして、大統領専用機がおおよそ 1 時間遅れで降り立った。」

金平茂紀「たった今、トランプ大統領が会場に姿を見せました。大歓声が沸き起こっています、集会の熱狂ぶりはなんだか尋常ではないようなものを感じます。」

ナレ「演説でバイデン候補を何度もこき下ろす。」

トランプ大統領「私はこうやって飛び回っている。""寝ぼけたジョー (バイデン) ""は地下室にこもってばかりだ。メディアが""寝ぼけたジョー (バイデン) ""にインタビューしたら (つまらなくて) 彼らもねてしまったようだ。」

ナレ「そして、中国を引き合いに批判を強める。」

トランプ大統領「バイデンは中国の WTO（世界貿易機関）への加盟に熱心に賛成していた。そしてミシガンの労働者が苦勞している裏で中国が台頭した。中国のように私達を食い物にしてきた国は他にはない。我々は勝つ。あなたが勝ち、ミシガンが勝ち、そしてアメリカが勝つ。」 "

"ナレ「トランプ大統領が熱狂的な支持を集める理由がどこにあるのか、ある支持者を訪ねた。ジョアン・チェースさん、4年前の選挙から熱烈に支持し続けている。」

ジョアン・チェースさん「彼の素晴らしいことについて話し始めたら止まらないわ、中東との和平条約、イスラエルにあるアメリカ大使館の移転。アメリカを嫌う外国の指導者たちと仕事して、戦争や殺し合いの可能性を低くしたのよ。」

ナレ「新型コロナの死亡者数が世界最悪になっていることについては。」

ジョアン・チェースさん「中国の誰かがアメリカにウィルスを送り込んだ、アメリカにはないウィルスだったんだもの、大統領はできる限りのことをしたわ。」

ナレ「トランプ大統領はブラックライブズマターに対し、黒人だけを特別扱いすることになる、と主張してきた。ジョアンさんも同じ意見だという。」

金平茂紀「私はアジア人です、黒人でも白人でもありませんが。ブラックライブズマターにも共感を抱きました。アジア人でありながら、です。」

ジョアン・チェース「もしいい行動をするのなら、私も共感するわよ、でも、黒人が白人を殺し、レイプしていることについてはどう、公平なバランスが必要。一つの人種ではなくすべての人種の問題よ。」 "

"ナレ「一方、優勢が伝えられる民主党バイデン候補の陣営はコロナ対策のため、大規模な集会を開いてはいない。」

ジョー・バイデン（民主党候補）「(勝敗は) ペンシルベニアで決まるかも知れない。あなた方とこの州を信じています、私は皆のための大統領として働きます。」

ナレ「激戦州の一つ、ペンシルベニア州にあるバイデン氏の生まれ故郷を訪ねた。」

金平茂紀「あ、本当だ、""Scranton LOVES JOE""って書いてる。ええ、ペンシルベニア州のスクラントンっていう街に来ていますがけれども、ここはジョー・バイデン氏が 10 歳まで生まれて育った生家があるところです。」

あ、ここに地味に書いてありますね、『ここが次の大統領のバイデンさんが生まれ、暮らしたところです、というサインがありますけれども、ここがジョー・バイデンの家?」

ジョセフィン・カミタさん「そうですね、ジョーが勝つことを祈っているわ。彼が必要な、この国を建て直さなくちゃ、数年間でこの国は崩壊してしまった、トランプでなければパンデミックだってこんなにひどくならなかったはずです。」 "

"ナレ「スクラントンという地名はこの地で鉄鋼業を起こしたスクラントン兄弟の名前が由来だ。19 世紀から 20 世紀前半にかけて炭鉱と鉄鋼業で栄えた街はかつての鉄道の駅舎や製鉄炉の跡が残る、しかし現在は人口も最盛期の半分にまで減少するなど、目立った産業はない。」

女性 E「この街にはトランプ支持者もいるしバイデン支持者もいます。バイデン氏に魅力を感じる理由は民主党の候補だから、彼を人として好きだからというよりも、2つの選択肢のうち、どちらがマシかで選んでいます。」

男性 F「最近、トランプがコロナの対応を誤ったため、バイデンが問題を解決するかもと思いはじめています、でも僕はバイデンが状況を変えられるとは思いません。」

ナレ「スクラントン家の末裔で今もこの街に住むキャロル・ルーベルさんに話を聞くことができた。」

キャロル・ルーベル「スクラントンは歴史的に民主党支持者が多い街です。産業や労働組合が大事にされる中、民主党は最低賃金や労働時間、労働環境の安全、それに子供の就労禁止など労働者を守ってきました。」

ナレ「しかし、一部の米メディアはそのスクラントンでバイデン氏の支持が伸びていない、と報じている。」 "

金平茂紀「インド、ラテンアメリカから来たビジネスマンの移民の大部分がトランプ支持？」

キャロル・ルーベル「そうした人々は彼の言葉の裏に何かがあるかを理解していません、例えばトランプが税金を引き下げると言えば、それをうのみにするのです。」

金平茂紀「今回の結果はどうなるか？」

キャロル・ルーベル「バイデンの圧勝を期待しています。」

ナレ「民主党バイデン陣営が切り札として副大統領候補に指名したのがカマラ・ハリス 56 歳。」

カマラ・ハリス（副大統領候補）「信念を持って戦いましょう、希望を持って戦いましょう。」 "

"ナレ「ジャマイカ出身の父とインド出身の母との間に生まれた移民 2 世のハリス氏、黒人女性が副大統領候補になるのはアメリカ史上初めてのことで、女性の副大統領候補第一号の誕生は 1984 年のジェラルディン・フェラーロ氏。」

ジェラルディン・フェラーロ氏「私達は勝つ！」

ナレ「フェラーロ氏を指名したのは大統領候補のウォルター・モンデール氏だ、1993 年に駐日大使に就任 s 塗るなど日本と馴染みが深い。そのモンデール氏取材した。」

金平茂紀「女性を副大統領に指名した理由は？」

ウォルター・モンデール元副大統領「助成に対する偏見をなくすためにも一緒に立候補する女性を見つけようと思いました。我々は勝利できませんでしたが、それをきっかけに議員に立候補する女性が増え撒いた。少なくとも女性の環境には変化が起きました。」

ナレ「一方、これまで、女性が副大統領の座についたことは一度もない。」 "

"そして今、女性表の取り込みに必死なのがトランプ大統領だ、世論調査で女性の支持率がバイデン氏の 55% に対し、トランプ氏が 39%、トランプ陣営が切り崩しを図っているのが無党派層が多い都市部、その郊外に住む女性の票だ。」

トランプ大統領「郊外に済んでいる女性はトランプが嫌いだと!?女性の皆さん、私は女性が好きです、女性が好きです。」 "

(CM)

"ナレ「予断を許さない選挙戦最終盤、仮にトランプ氏が賽銭した場合、世界にどんな影響を与えるのか、ジョン・ボルトン氏、大統領の国家安全保障担当特別補佐官として 2018 年 4 月から 1 年 5 ヶ月、トランプ氏を間近で見続けた。そして退任後、500 ページを超す回顧録を出版、トランプ外交の混乱や知識不足を赤裸々に暴露し、大きな衝撃を与えた。」

ジョン・ボルトン（元大統領特別補佐官、国家安全保障担当）「大統領が『フィンランドはロシアの一部か?』と聞いたり、『ベネズエラはアメリカの一部か』と聞いたりしたことがあります。メイ首相に『イギリスは核保有国か』と聞いたこともあります、そうしたエピソードが数多くあるのは大統領にそうした知識がないからですし、またそれを彼が特に気にしていなかったことを示しています。」

金平茂紀「イギリスが核保有国かどうか知らないのですね。」

ジョン・ボルトン「彼は知らなかったのです、イギリス側は絶句したまま目を大きく見開いていましたよ。」

ナレ「ボルトン氏によればそんなトランプ大統領は任期中、一つの野望をいだいてきたという。」

ジョン・ボルトン「彼が就任後の三年間で成し遂げたかったのは今世紀最大の取引、史上最大の貿易協定です。」

ナレ「中国と貿易協定を結ぶことで、アメリカ経済に巨大な利益をもたらし、それを再選の切り札とする、ボルトン氏によれば、そのためにトランプ大統領はある時期まで中国に強い圧力をかけなかった、と指摘する。」 "

"ジョン・ボルトン「トランプは最初はコロナウィルスについて何も聞きたがりませんでした。友人である習近平に対する批判も聞かず、中国との貿易協定に影響することは何も聞こうとせず、特に再選の切り札であるアメリカ経済にマイナスになることは聞く耳を持ちませんでした。」

トランプ大統領（今年 10 月）「アメリカは今、このひどい""中国ウィルス""を打ち負かそうとしている。」

ナレ「このところ、新型コロナウィルスの感染拡大をめぐり中国批判を強めるトランプ大統領だが、それはあくまで選挙向けの国内世論対策だという。」

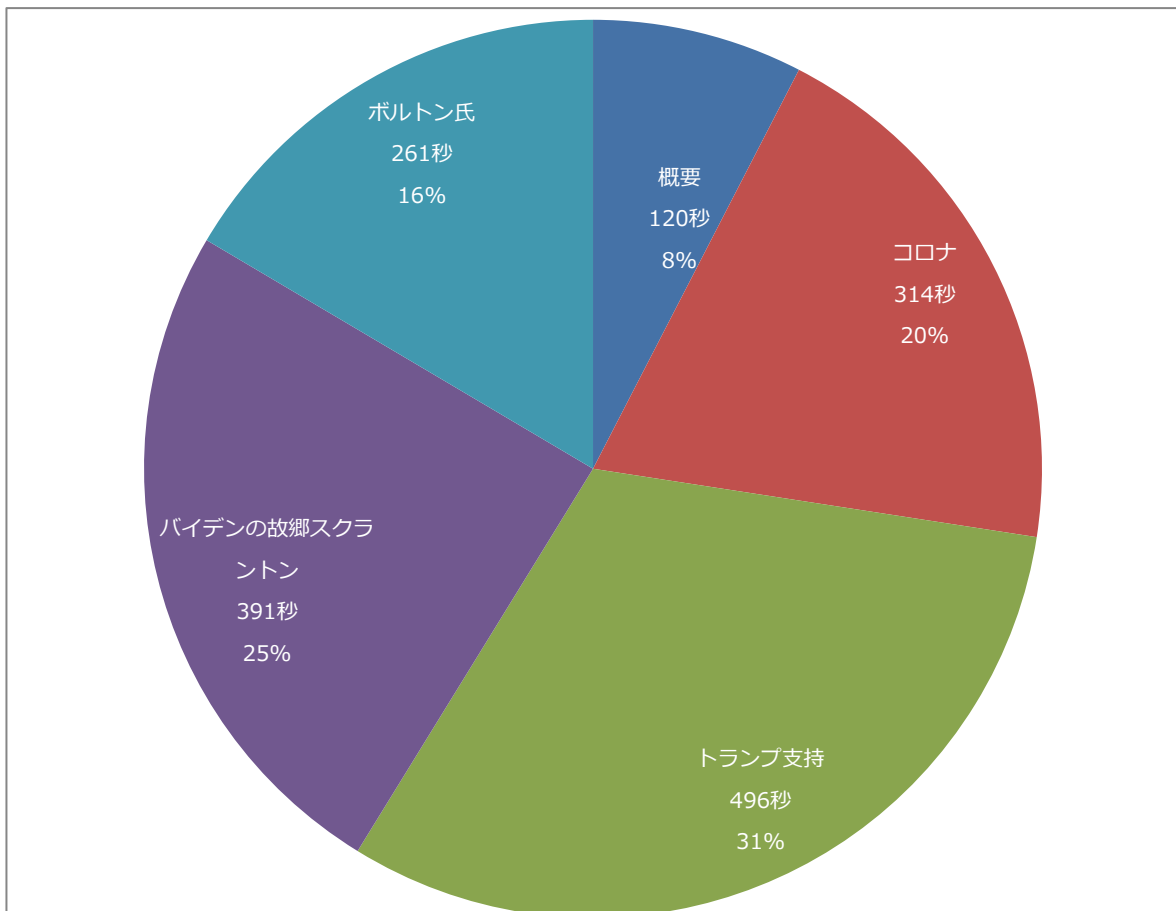
ジョン・ボルトン「再戦されれば一瞬で変わります、習近平が彼に電話をして貿易交渉を再開しようというかも知れませんが、トランプが応じる可能性は十分にあると思います、関税を撤廃し、経済制裁を解除し、米中関係を元通りにするでしょう、それがトランプの二期目のリスクです。」

ナレ「4年前にはトランプを支持したボルトン氏、今回は誰に一票を投じるのか？」

金平茂紀「2020年の大統領選はトランプを支持しますか。」

ジョン・ボルトン「いいえ、支持しません。共和党大統領候補に投票しないと決めたのは成人になって今年が初めてです、しかし私はジョー・バイデンにも投票しません。どちらが勝っても私にはアンハッピーな選挙の夜になります、トランプが二期目を手に入れられないことが重要なのです、今なら国内外に彼が与えたダメージはすぐに修復できると思います。しかしもし彼が二期目に当選したらいくつかのダメージは取り返しが付きません。」 "

この特集に当てられた時間は 1582 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】”トランプの壁”は今：

金平キャスターの「再びワシントンです。今回の選挙で大きな鍵を握っているのは、眠れる巨人と言われる膨

大な人口を抱えるヒスパニック系住民の動向です。彼らは今、誰を選ぼうとしているのでしょうか。」とのコメントを受けて以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「トランプ政権下でかつてない緊張を強いられているのが、不法移民だ。」

ナレ「カナダとの国境の町、ニューヨーク州のブラッツバーグ。中米出身のマリアさんは、14歳の息子と共に、母国の治安悪化から逃れるため、観光ビザでアメリカに入国した。」

マリアさん（吹替）「トランプの壁を越えてこなければならぬので、本当に大変なのです。ここにたどり着くまで、とても長い道のりでした。」

ナレ「トランプ政権は、不法移民の摘発を強化し、中米からの難民申請も大幅に制限している。」

マリアさん（吹替）「トランプ大統領が移民政策の全てを変えてしまいました。再選されれば同じことが続くでしょう。」

マリアさん（吹替）「最も心配しているのは息子のこと身の安全です。私たちの身に何が起こるかわからないから、本当に怖いのです。」

ナレ「マリアさんは大きな決断をした。」

マリアさん（吹替）「未来は絶対に明るいと信じています。この子と一緒に行くんです。」

ナレ「アメリカへの難民申請は諦め、カナダに身を委ねることに決めたのだ。」

カナダ警察（吹替）「もしここで、国境を越えればカナダへの不法入国となりますよ。わかりますか？」

マリアさん（吹替）「はい。」

カナダ警察（吹替）「合法的な入り口はもっと向こうです。」

マリアさん（吹替）「でも私はここから入るつもりです。」

カナダ警察（吹替）「あなたがしたいようにすればいいが、逮捕することになりますよ。」

マリアさん（吹替）「それでもいいです。」

カナダ警察（吹替）「いいんですね？彼も一緒ですか？」

マリアさん（吹替）「私の息子です。」

ナレ「トランプ大統領の就任以降、カナダへの難民申請は、倍以上に増加した。マリアさんは今カナダの NGO で働いていて、来月難民申請のための面接を受ける予定だ。」

ナレ「不法移民を防ぐために建設が進むトランプの壁。大統領選の渦中にある国境の町取材した。」

(CM)

ナレ「アメリカ南部。メキシコとの国境。トランプ大統領は就任直後から、ここに壁の建設を進めてきた。」

ロサンゼルス支局松本年弘「この長く、ずっと続いているのが、全て新しく立てられた国境の壁です。さらにです。この後、こちら、急勾配の山の頂上にまで、国境の壁が新たに建設される予定です。」

ナレ「壁は、高さ9m。バイデン氏は、大統領に就任したら、壁の建設を中止すると訴えている。」

ナレ「メキシコとの国境に近い、アリゾナ州アリバカ。ここで牧場を経営するチルトンさん 81歳。広大な牧場の敷地は、メキシコとの国境にまで続いている。国境警備隊が行き来することも多い。」

ジム氏（吹替）「どうだい？」

国境警備隊（吹替）「すごく忙しいわ。」

記者（字幕）「どうしてそんなに忙しい？」

国境警備隊（吹替）「多くの人たちが国境を越えてくるから。」

ナレ「これは、牧場付近に設置された監視カメラの映像だ。迷彩服姿の人たちは、メキシコ側からやってきた不法入国者。中には麻薬の運び屋もいて、頻りに牧場にも入ってくるという。」

ナレ「この周辺は、彼らの格好の抜け道となっている。」

ジム氏（吹替）「81歳の私でも、簡単に越えられるんだから、誰でも越えられるよ。」

ナレ「山岳地帯の国境は、警備も緩く、今はこの低い柵しかない。この辺りにも、あと2、3か月で、あの壁が建設される予定だという。」

ジム氏（吹替）「待ちきれないよ。もうすぐ壁が立つんだから。トランプ大統領の再選を、本当に願っているよ。壁の建設を続けてもらうためにもね。」

ナレ「帰り道、国境警備隊の車と遭遇した。」

記者（吹替）「見てみろ。不法入国者が車から降ろされてる。国境警備隊が強制送還しているんだ。」

ナレ「国境の壁は今年中に建設予定の、800 kmのうち、既におよそ600 kmが完成している。」

男性（吹替）「感動的だよ。ワーオ」

ナレ「同じアリバカを拠点に活動する自警団のリーダー、フォーリーさん。」

フォーリー氏（吹替）「ヒラリーが勝っていたら絶対にこの壁は見られなかった。」

ナレ「フォーリーさんは国境付近で、仲間とともに、主に麻薬の運び屋の取り締まりを行なっている。」

フォーリー氏（吹替）「赤い点があるだろ？麻薬カルテルが国境越えのために見張り役を置くポイントさ。」

ナレ「これは自警団がドローンで撮影した映像。国境近くの山の頂上付近で、麻薬密輸業者の見張り役とみられる人物を捉えていた。ドローンに気付き、銃を向けている。」

ナレ「自警団は不法入国者が通れそうな場所にカメラを設置。パトロール中に怪しい人物を見つければ、国境警備隊に引き渡すという。」

アリゾナ州の自警団 ティム・フォーリー代表（吹替）「メディアは俺のことを、”差別主義者” だと言うが、知ったことか。これは必要なことなんだ。」

ナレ「一方、壁のメキシコ側。取材に応じたのは、コヨーテと呼ばれる密入国の斡旋業者だ。」

闇の案内人”コヨーテ”（吹替）「トランプの壁の効果は、不法移民をほんの少し減らすくらいだ。不法移民を止めることはできないね。」

闇の案内人”コヨーテ”（吹替）「俺達がトンネルを地下に掘って、それを国境警備隊が見つけて埋めても、また別の場所にトンネルを掘る。いたちごっこさ。」

ナレ「一方で国境を越えてくる移民をを助けようとする人たちもいる。」

男性（吹替）「ここで、何人かの遺体が見つかったんです。」

ナレ「不法移民の中には何日間もかけて、砂漠を歩き続け、命を落とす人が少なくない。」

男性（吹替）「おいていた水がないな。3つなくなっているね。」

記者（字幕）「I'm sorry 不法入国者が飲んだ？」

男性（吹替）「たぶんここを通ったんでしょうね。」

ナレ「アリゾナ州では、複数のボランティア団体が、人道的な立場から、水や食料を砂漠においている。」

ボランティア団体の男性（吹替）「移民たちは、9Mの壁を作っても、9M30メートルの梯子を手に入れて、国境を越えてきますよ。トランプの壁でも彼らは止められません。」

ナレ「移民の国アメリカ。州によっては不法移民であっても、運転免許を取得できる。彼らが労働力として、アメリカ社会を支えている現実がある。」

ナレ「不法移民は厳しく取り締まるべきだとしているトランプ氏と、移民を受け入れていくべきだとするバイデン氏は、真っ向から対立している。」

トランプ大統領（字幕）「不法移民を逮捕後に釈放するなんてありえない。殺人犯もレイプ犯も悪い連中が来てい

る。」

バイデン候補（字幕）「大統領に就任したら、100日以内に、議会に不法滞在者1100万人が市民権の道筋を付けられるように働きかける。」

ナレ「今回の選挙で、注目を集めているのは、中南米にルーツを持つ、ヒスパニック系住民の投票行動だ。」

ナレ「アメリカの国勢調査局によると、ヒスパニックの人口は、この9年間で、1000万人近く増え、去年6000万人を超えた。アメリカ全人口の18.5%を占めている。」

ナレ「その象徴的な街に向かった。ペンシルベニア州の東部にあるヘーズルトン。この街には中南米から移住したヒスパニック系の人たちが、多く暮らしている。」

金平「ok please, thank you」

ナレ「30年前にペルーから移住してきたアロヨさん、71歳。クルーズ船の床掃除の仕事をした後、銀行員に転職。今はスペイン語で発行するタウン紙の編集長を務めている。」

アロヨ氏（吹替）「これは私の出生証明書です。アメリカの市民権証明書と、一緒になっているんです。小さな紙なんです、」

アロヨ氏（吹替）「1995年に手続きをして、市民権を得ました。」

ナレ「アロヨさんがヘーズルトンで暮らし始めた頃、ヒスパニック系の住民は、100人程度しかいなかったが、今は2万人にまで増えている。」

アロヨ氏（吹替）「ヘーズルトンでは人口の70%が、ヒスパニック系の住民で、」

アロヨ氏（吹替）「大多数はドミニカ共和国の出身者です。」

ナレ「アロヨさんに町を案内してもらおうと・・・」

アロヨ氏（吹替）「ここは町で最も古い商業地区です。白人の減少でほとんどの店が潰れてしまって、その頃にヒスパニックの人々が移住してきたんです。あそこは昔ビリヤード場でしたが、今は美容院です。あっちはバーだったけど、今はヒスパニック系の保険会社になっています。」

ナレ「街を走ると、トランプ支持のプラカードをあちこちで目にする。ヒスパニック系住民の間でも、トランプ氏を支持する声は根強いとアロヨさんは感じている。」

金平（字幕）「この町の人々はなぜトランプ氏を支持するのか？」

アロヨ氏（吹替）「最大の理由は、ビジネスマンであるトランプが、強い経済を維持してくれると思っているからです。」

アロヨ氏（吹替）「アメリカにつけこんでくる国に対抗できるのは、トランプしかいないと考えているんです。」

ナレ「町の理髪店を訪ねた。」

アロヨ氏（吹替）「ここは典型的なヒスパニック系の床屋です。ますます有名になるぞ。テレビの取材だよ。」

金平（字幕）「選挙の日は投票しますか？」

男性（吹替）「はい。」

金平（字幕）「どちらの候補に？」

男性（吹替）「それは言えない。秘密だよ。でも投票には行くよ。」

アロヨ氏（吹替）「君は誰に投票するの？」

男性（吹替）「さあね。」

アロヨ氏（吹替）「ここにいる人はみんな投票するけど、誰に入れるかは言いたくないみたい。」

ナレ「アロヨさんが心配しているのは、トランプ政権になって、差別や分断が強まっていることだ。」

金平（字幕）「近年、白人至上主義の運動が、起きていますね？」

アロヨ氏（吹替）「ヘーズルトンに白人至上主義者がいるかと聞かれれば、確かにいます。ヒスパニック系住民が住むエリアを、星条旗と南部連合の旗を掲げて巡回するトラックがいます。街中を走り回って脅しているんです。」

ナレ「街では、ヒスパニック系の住民を脅すかのように、白人至上主義の象徴とされる南部連合の旗を掲げた車が走り回っているという。」

ナレ「投票率の低さから、“眠れる巨人”と呼ばれるヒスパニック系の人々。アロヨさんは、今回の選挙で、移民の国としてのアメリカのあり方を、見極めて欲しいと願っている。」

アロヨ氏（吹替）「『眠れる巨人』と呼ばれるヒスパニック系の人々。今回彼らが目を覚まして、バイブに投票してくれることを、願っています。大統領になる人は、アメリカ国民全員を尊重して欲しいと思います。自分に投票した人だけじゃなくて、アメリカで暮らすすべての国民の大統領であるべきです。」

VTR を受けてスタジオと中継の間では以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場「ではワシントンの岩田支局長に聞きます。最近の選挙情勢はどうなっていますか？」

ワシントン支局長岩田夏弥「はい。こちらはですね、分析に定評のあります、クックポリティカルレポートのデータなんですけども、ご覧のようにバイデン氏が、優勢というような状況です。そして他の多くの調査でも、おおむね似たような傾向になっています。」

岩田支局長「そしてひとつ注目がこちら、大票田の南部のテキサス州です。実は数日前までこのテキサスは、トランプ氏の優勢やや優勢、に判定されていたんですが、こちらの激戦の方に変更されました。テキサスでは記述ない投票を行った人の数が、四年前の選挙の投票者の数を上回る 900 万人を超えていまして、バイデン氏に有利になってきているという分析の結果です。」

岩田支局長「まあ調査の上にはトランプ氏が徐々に追い込まれてきていることを象徴するこの変更といえると思います。」

日下部「あの仮にですね、トランプ大統領が破れた場合も、大統領が負けを受け入れないんじゃないかという見方がありますよね。実際そういった事態って起こりうるんでしょうか？」

岩田支局長「はい、トランプ氏はこれまでにですね、郵便投票は詐欺だとか、最高裁までもつれるだろうと言った発言をしてきました。まあこれは、自分が負けるはずがない、負けだというのなら、集計がおかしいと宣言しているようなものです。そしてつい先ほどなんですけどツイッターに、選挙は 11 月 3 日で終わるべきだという投稿しました。開票に時間がかかる郵便投票は無視して、一方的に勝利を宣言する可能性すらにおわせています。いずれにせよ大きな混乱が生じる可能性がありますし、各地で暴力を伴うような混乱が起きるのではないかと、非常に心配です。」

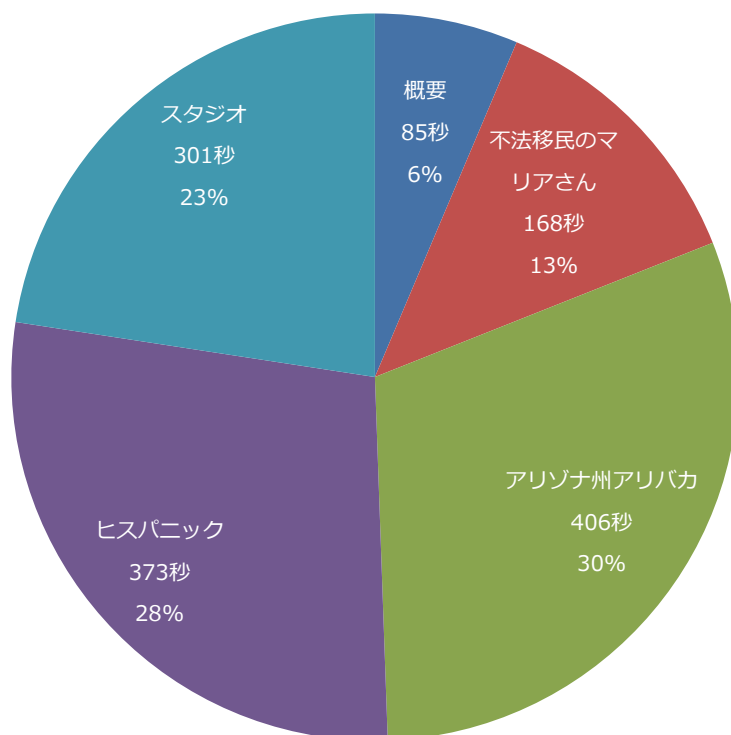
金平「岩田さんですね、あの一私、今回取材してみて、二つのアメリカの分断と言われてましたけれども、それが更に状況が悪化してですね、憎悪とか、憎しみってものがなんかこう、そういうものに変化していったと感ずるんですけども、岩田さんは今回取材していてですね、最も重要だと感じたことってのは一体何なんですか？」

岩田支局長「はい、トランプ大統領、これまでも数々の暴言もあつたんですけども、今回このですね、郵便投票は詐欺だという発言は、民主主義の最大の根幹である選挙の仕組みを、国のトップが否定するという、まああの、一線をはるかに超えたとんでもない発言だという風に思います。アメリカではこれまでに、期日前投票を済ませた人の数が、郵便投票も含めて 8700 万人を突破して、前回の投票総数の 6 割を超えているんです。各地では期日前投票をするために大勢の人が 2 時間も 3 時間も並んでいるわけですが、郵便投票ならポストに投函すれば終わるのに、なぜあえて行列に並ぶのか？その理由の一つはですね、トランプ氏の発言もあって、郵便投票だ

と、自分の票がきちんとカウントされるのか、不安があると。そして、自分の手で確実に、自分の一票を選挙に反映させたいという思いがあるからです。そういう意味では今回の投票者数の多さというのは、どちらかを支持するかという問題とは別にですね、民主主義を守らなければいけない。選挙の結果を決めるのは自分たちだとアメリカの有権者が挙げている大きな声だという風にも言えると思います。」

金平「民主主義を守らなければいけないっていう思いは分かるんですけど、どうしても僕はあの四年前の記憶が鮮明に残っていて、優勢が伝えられていたヒラリークリントンさんが、敗れ去ったっていうですね、とにかくあの行方を注目したいというふうに思いますけども、まあここですね、ひとつあの、頭を少し柔らかくしてですね、違う角度から見てみたいことが一つあってですね、アメリカ文化の批判精神っていうかですね、ユーモア精神っていうのはまだまだ健在だっていうようなエピソードなんですけれども、トランプ大統領がですね、支持者の集会をですね、ビレッジピープルっていう昔のバンドが謳った大ヒット曲の、冒頭でも出てましたけれども、YMCA っていうのを、使ってですね踊ったりしてるんですけども、それをそのアメリカのテレビ番組がですね、サタデーナイトラブっていうのがですね、からかって、ヴィレッジピープルのパロディがですね、俺達の唄を使わないでくれやめてくれというようなことがですね、そういう反撃をしてるんですよ。日本の政治批判もですね、これぐらい自由にやってほしいもんだなという風に思います。とにかく投票日、それ以降の混乱がですね、とっても心配な状況です。来週も結果を含めてですね、こちらワシントンからお伝えします。」

この特集に当てられた時間は秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・大阪都構想

大阪都構想は確かに関西ローカルの問題であり、関西に住んでいない人間にとっては馴染みのないトピックだとは思いますが、それをローカルの問題と言うならば沖縄の米軍基地だとか、原子力発電所の問題も基本的にはローカルな問題でと言えるだろう。

今回の都構想について報道特集はこれまでほとんど取り上げてこなかったが、それはどういう理由からなのだろうか。

報道特集が特集で取り上げる地方の問題というのはどういう基準で選ばれているのだろうか、疑問に感じた。

・【特集】”トランプの壁”は今

スタジオと中継の間では郵便投票をめぐる岩田支局長が「トランプ大統領、これまでも数々の暴言もあったんですけど、今回このですね、郵便投票は詐欺だという発言は、民主主義の最大の根幹である選挙の仕組みを、国のトップが否定するという、まああの、一線をはるかに超えたとんでもない発言だという風に思います。」とコメントしていたが、これは非常に安定的に運用されている郵便制度のある日本の感覚からすればその通りであるが、アメリカの郵便の実態という点に即して考えるとどうなのだろうか。最も報道特集ではアメリカの郵便制度の実態が伝えられていなかったのも、なんとも言えないが、例えばブッシュ Jr とアルゴアの選挙では敗れた民主党側が票の再集計を求めるといった事態もあった。票の最終形というのも日本では馴染みのない話であるが、このように選挙管理事務や郵便への信用が日本とアメリカではそもそも異なるのだから、そうした現地の事情を無視して「一線をはるかに越えたとんでもない発言」と断ずるのはアンフェアであると言える。

また、金平キャスターの金平「民主主義を守らなければいけないっていう思いは分かるんですけど、どうしても僕はあの四年前の記憶が鮮明に残っていて、優勢が伝えられていたヒラリークリントンさんが、敗れ去ったっていうですね、とにかくあの行方を注目したいというふうに思いますけども、まあここでですね、ひとつあの、頭を少し柔らかくしてですね、違う角度から見てみたいことが一つあってですね、アメリカ文化の批判精神って言うかですね、ユーモア精神ってのはまだまだ健在だっていうようなエピソードなんですけれども、トランプ大統領がですね、支持者の集会をですね、ビレッジピープルって言う昔のバンドが謳った大ヒット曲の、冒頭でも出てましたけれども、YMCA っていうのを、使ってですね踊ったりしてるんですけども、それをそのアメリカのテレビ番組がですね、サタデーナイトラブっていうのがですね、からかって、ヴィレッジピープルのパロディがですね、俺達の唄を使わないでくれやめてくれというようなことがですね、そういう反撃をしてるんですよ。日本の政治批判もですね、これぐらい自由にやってほしいもんだなという風に思います。」というコメントについても、アメリカは二大政党制であり共和党政権批判は共和党批判に過ぎないということが抜け落ちているし、日本のメディア産業や公共の電波を活躍の場としている芸能産業というのが外資規制及び許認可制度のもとで新規参入や市場競争から守られた特権的なビジネスとして成立しているという点も見落とされているように見受けられた。

まず、アメリカであれば時の政権批判は時の政権批判に過ぎず、民主党と親和的な人は共和党を批判するし、共和党と親和的な人は民主党を批判するという話に過ぎない。それが自民党あるいは自公ブロックの優位が続く日本政治との違いである。

加えて、日本の場合は規制産業や政府公権力による既得権が多いという事情があり、だからこそ規制官庁への批判というのは中々自由にできないのかも知れないが、その割には政治批判というか政治家批判というのはかなり自由にやれているような印象も受ける。

金平キャスターはもっと自由な政治批判をお望みのようだが、そうであるならばここは一つ、総務省による放送事業者の許認可制度というのを廃止して、テレビ産業の既得権益を返上する代わりにテレビ業界への総務省の関与を極小化することで、“しがらみ”を脱ぎ捨て、自由な政治批判を展開する、そうした環境を求める、というのはいかがだろうか。